

論文審査の要旨
Summary of Dissertation Review

博士の専攻分野の名称 Degree	博 士 (学 術)	氏名 Author	THAN THAN SOE
学位授与の要件	学位規則第4条第①・2項該当		
論 文 題 目 Title of Dissertation	Essays on Inflation Targeting		
論文審査担当者 Dissertation Committee Member	主 査 Committee Chair 広島大学大学院国際協力研究科 教授 柿中 真 印 Seal 審査委員 Committee 広島大学大学院国際協力研究科 教授 市橋 勝 審査委員 Committee 広島大学大学院国際協力研究科 教授 吉田 雄一朗 審査委員 Committee 広島大学大学院国際協力研究科 准教授 高橋 新吾 審査委員 Committee 国際大学大学院国際関係学研究科 准教授 LIN, CHING-YANG		
〔論文審査の要旨〕 Summary of Dissertation Review 本博士学位論文はインフレ目標政策とマクロ経済変数、中央銀行の信頼性との関係性について議論しており、当該研究は学術的のみならず政策的にも重要性の高い課題である。インフレ目標政策に関するマクロ経済学・国際経済学の分野における先行研究を踏まえて、計量経済学を応用しつつ、インフレ目標政策の効果に関する3つの重要な課題について研究を行っている。一つ目は Income velocity (貨幣の所得速度) に対する効果、二つ目は Exchange market pressure (為替市場プレッシャー) に対する効果、三つ目は中央銀行独立性・透明性に対する効果である。それぞれの研究課題は新規性・重要性が高く、マクロ経済学・国際経済学の視点に立った研究結果及び研究含意を導出したことは非常に高く評価できる。 本論文は以下に示しているように5章から構成されている。 序 章：導入 第2章：インフレ目標と貨幣所得速度 第3章：インフレ目標と為替市場プレッシャー 第4章：インフレ目標と中央銀行独立・透明性 終 章：結論 主な内容は以下のとおりである。第2章は、国内経済に関する研究であり、インフレ目標の Income velocity (貨幣の所得速度) に対する効果を分析している。研究結果としてはインフレ目標政策がインフレ安定化のみならず貨幣の所得速度を安定化させることが示された。この結果は開発途上国において、インフレ目標の導入がマネタリー・ターゲット政策の有効性を高めるとの重要な政策的含意を示している。第3章は海外経済に関する研究であり、インフレ目標の Exchange market pressure (為替市場プレッシャー) に対する効果を分析している。研究結果はインフレ目標政策が為替市場プレッシャー、特に中央銀行が保有する海外資産の変動、を安定化させることが示された。この結果は、インフレ目標導入後、開発途上国の中央銀行による為替市場への介入程度が小さくなることを示唆している。第4章は中央銀行の制度に関する研究であり、インフレ目標の中央銀行独立性・透明性に対する効果を分析している。研究結果としては、インフレ目標導入が中央銀行の政策透明性を高める一方、独立性は弱まることが示された。この結果は政治経済学的にも意味がある。開発途上国の中央政府は、インフレ目標に関する金融政策の権限を中央銀行に付与する代わりに、政策的透明性を中央銀行に求め、かつ、中央銀行の独立性を低下させることによって、中央政府の権限を保守しているとの一つの推測を示唆している。第2章と第3章に関しては、 Impact factor 付国際学術雑誌である North American Journal of Economics and Finance 及び Finance Research Letters にそれぞれ受理され、出版済である。第4章については、現在、 Impact factor 付国際学術雑誌に投稿しており、レビュー待ちの状況である。また、論文の一部については、 IMF 等で口頭発表されている。これまでの研究を踏まえ、インフレ目標に関する主要政策課題を体系的に構築・分析し、重要な政策含意を導出していることは高く評価される。 以上の結果、試験委員全員一致で、申請者が博士(学術)の学位を授与されるに十分な学識と能力を有しているものと認め、合格と判定した。			